

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### ●昭和大学薬学研究科医療薬学専攻

##### 「薬剤師の薬学的臨床研究能力養成プログラム」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

薬学6年制導入により、薬学研究科では平成24年度から4年制博士課程に移行する。これに先立ち、将来の博士課程での人材養成に適したカリキュラム構築を行った。それまでの各講座ごとの特論ではなく、高度な能力を発揮する薬剤師に求められるニーズに対応した科目を選んで、「薬学的臨床研究スキルアップコース」「薬学的臨床研究地域コース」「薬学的臨床研究病院コース」を構築した。各科目は、SGD、Eラーニングなどを取り入れた参加型授業とすることも、新しい試みである。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

①各科目は、一方的な講義による授業ではなく、SGDなどを取り入れた参加型授業とした。②本学医学部、歯学部の教員、あるいは学外の薬剤師の方々を講師として授業に加わって

頂き、それぞれの専門領域での問題点について議論をする場を持つようにした。特に授業で取り上げるテーマには、臨床現場の事例、あるいは社会のニーズに関することを取り上げるようにした。

③社会で活用できる英語力を目標とした実践的な英語の科目を導入した。その為、Eラーニングシステムも活用した。

④社会人聴講生)の参加も歓迎した。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

授業で取り上げるテーマとして、臨床現場の事例や社会的なニーズを考えるような事柄を扱ったことで、受講者は新鮮な興味を持って授業に取り組めた。SGDを取り入れた参加型の授業なので、積極的に考え、課題に取り組み姿勢が目立った。短い時間のなかで、いろいろな意見を聞き、それを整理してグループの意見をまとめて行くのは大変な作業であるが、学生たちは大変に内容のあるプロダクトを作ることが出来た。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### F. その他

#### ①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

##### ●昭和大学薬学研究科医療薬学専攻

##### 「薬剤師の薬学的臨床研究能力養成プログラム」の事例

###### (具体的に何を実施したのか)

大学院生の国際的な活動の機会を作るために、海外の3大学(嶺南大学(韓国)、マハサラカム大学(タイ)、オルバニー薬科大学(アメリカ))と昭和大学薬学部とで学部間協定を結び、大学院生および教職員の交流を開始した。大学院 GP の3年間で昭和大学から派遣したのは、嶺南大学へ大学院生7名、教員4名、マハサラカム大学へ大学院生2名、教職員3名、オルバニー薬科大学へ教員3名である。また、昭和大学に受け入れたのは、嶺南大学から大学院生2名、教員2名、マハサラカム大学から教員1名、オルバニー薬科大学から学生2名、教員1名である。

###### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ①薬学部6年制移行を踏まえ、既に6年制の過程を実施している大学との協定も結べるように検討した。3大学のうち、マハサラカム大学とオルバニー薬科大学は既に6年制教育を行っている。
- ②短期間の派遣・受入れであっても、大学院生・学生同士の交流機会をできるだけ持つようにすることと、目的意識を持った訪問となるように、大学院生主体の合同セミナーを開催し、英語でのプレゼンテーションを義務付けた。
- ③学生の国際交流への関心を引き出し、またその土台作りをするために英語学習の同好会を作って、実践的な英語力の向上の場を提供した。

###### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

大学院生、学生たちは、外国との接点をより身近に感じるようになり、積極的に短期留学などの可能性を相談しに来る学生が増えた。また、協定校からの学生を受け入れる際には、多くの大学院生、学生がセミナーや歓迎会等に参加して、積極的に話しかけるなど、貴重な機会を活かしていた。このようなイベントを契機として、より積極的に英語の学習に取り組む大学院生も現れ、何人もの学生がTOEICの高得点を得るまで成長した。